

# 全教栃木 教育新聞

## 教え子を再び戦場に送るな！ 「戦争する国づくり」は認めない！

新年度を迎えました。皆さんはどんな春をお過ごしでしょうか。

今年は執行委員に新しい先生方をお迎えし、少し若返ったスタッフになりました。

私の勤務する職場では、新入生に対して行っていた行事や、上級生向けの課題テストなどいくつか変更（改善）をしましたが、やはり年度初めの忙しい中で、最初の授業が始まったという感じです。

県教育委員会から教職員評価を勤勉手当や昇給に反映させたいという説明が、各職員団体になされました。ただでさえ、職場を分断し、教職員相互が学びあい教えあう関係性を破壊させるという声が多数なのに、この上賃金にまで差を設けるようなことは認められません。私たちはこの提案に対して、粘り強く活動していきます。

子どもたちを取り巻く環境も厳しさを増すばかりです。「全国学力テスト」・道徳の教科化、そして県立高校入試では普通科の全県一学区が導入されました。また高校授業料無

償化も所得の条件付きとなり、事務の負担も大変なものになっています。世界一と言われる大学の学費も、進学を希望する多くの生徒たちに暗い陰を落としています。保護者の収入が減る中、高い学費のために多くの高校生が奨学金の貸与を申し込みますが、これは未成年者が借金するようなもので、国の責任でいち早く給付制にすべきです。

政府は「戦争のできる国づくり」のための法整備を、それこそなりふり構わず進めています。「教え子を再び戦場に送らない」の合い言葉が、今ほど重みを持って訴えかけてくる時はないと言えるのではないのでしょうか。

そんな状況ではありますが、近年若い先生方が組合に加入され、独自に交流会や学習会を開催しています。彼らの新しい力もエネルギーとして、全教栃木の活動をさらに大きく発展させ、要求実現のために前進する年度にしたいと思います。

全教栃木教職員組合執行委員長  
篠原 章彦

全教栃木教職員組合（全教栃木） 全日本教職員組合（全教）に加盟しています。  
〒321-0138 宇都宮市兵庫塚3-10-30 TEL 028-653-0353 FAX 028-653-1579  
http://www.zenkyotcg.org E-mail info@zenkyotcg.org

## 教え子を再び戦場に送るな

下の詩は真壁仁編『詩の中にめざめる日本』（岩波新書、1966年）に掲載されているものです。詩自体は1952年、高知県教職員組合機関誌『るねさんす』が掲載されたとの紹介があります。

### 戦死せる教え児よ

竹本源治

逝いて還らぬ教え児よ  
私の手は血まみれだ！  
君を縫ったその綱の  
端を私は持っていた  
しかも人の子の師の名において  
嗚呼！  
「お互いにだまされていた」の言訳が  
なんでできよう  
慙愧、悔恨、懺悔を重ねても  
それがなんの償いになるう  
逝った君はもう還らない  
今ぞ私は  
汚濁の手をすすぎ  
涙をはらって君の墓標に誓う  
「繰り返さぬぞ絶対に！」

日本教職員組合（日教組）が1951年1月、「教え子を再び戦場に送るな」のスローガンを採択しました。日教組はまた、教育の自主性の擁護、平和と民主主義の教育の確立をめざして教育研究集会を開催することを決めて、この年の11月に日光市で第1回の教育全国集会が開催されたのです。栃木県は教職員

組合運動の歴史に、大きな足跡を残しているのです。

当時は前年に朝鮮戦争が始まり、警察予備隊が設置されるなど、日本の再軍備が危惧されていました。またアメリカなどと講和条約をむすび、日米安全保障条約も締結されました。このような政治情勢に対して、戦前の反省も踏まえ、「教え子を再び戦場に送るな」のスローガンが採択されたのです。

われらは、さきに、日本国憲法を確定し、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする決意を示した。この理想の実現は、根本において教育の力にまつべきものである。

われらは、個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期するとともに、普遍的にしてしかも個性ゆたかな文化の創造をめざす教育を普及徹底しなければならない。

ここに、日本国憲法の精神に則り、教育の目的を明示して、新しい日本の教育の基本を確立するため、この法律を制定する。

2006年12月に失効した旧教育基本法前文です。この法律のもとでは「戦争のできる国づくり」はすすめられないと思い、新しい教育基本法を定めたのでしょ。首相は招かれたアメリカで、自衛隊を地球の裏側まで出かせ、アメリカの行う戦争に参加させることを約束してきました。

私たち全教栃木教職員組合は、全日本教職員組合に結集する全国の仲間とともに、「教え子を再び戦場に送るな」のスローガンを胸に刻み、ともに活動していきます。

### 全教栃木教職員組合2015年度執行委員

執行委員長 篠原 章彦（県立小山西校等学校教諭）  
執行副委員長 高久 栄一（県立佐野松桜高等学校教諭）  
書記長 谷 秀夫（佐野市立常盤中学校教諭）  
書記次長 近藤 康弘（全教栃木教職員組合）  
執行委員 関 良則（茂木町立茂木中学校教諭）  
" 糸川 祥一（壬生町立南犬飼中学校教諭）  
" 岩崎明日香（宇都宮市立上河内中央小学校教諭）

# 「定員割れ」が前年を下回った県立高校全日制入試

定員割れは139人

|     | 特色選抜  | 海外特別選抜 | 一般選抜  |
|-----|-------|--------|-------|
| 定員  | 2814  | -      | 8767  |
| 受検者 | 5821  | 41     | 10812 |
| 合格者 | 3252  | 26     | 8642  |
| 倍率  | 1.79倍 | 1.58倍  | 1.25倍 |

| 学校名            | 学科     | 定員  | 定員割れ人数 |
|----------------|--------|-----|--------|
| 日光明峰           | 普通     | 160 | 72     |
| 佐野松桜           | 情報制御   | 80  | 2      |
| 足利工業           | 産業デザイン | 40  | 6      |
| 真岡北陵           | 教養福祉   | 30  | 3      |
| 烏山             | 普通     | 200 | 17     |
| 馬頭             | 普通     | 120 | 14     |
|                | 水産     | 25  | 4      |
| 大田原女子          | 普通     | 240 | 3      |
| 那須拓陽           | 普通     | 80  | 7      |
|                | 食物文化   | 40  | 5      |
| 那須清峰           | 電気     | 40  | 3      |
| 那須             | リゾート観光 | 40  | 2      |
| 矢板             | 社会福祉   | 30  | 1      |
| 2015年度定員割れ人数合計 |        |     | 139    |
| 2014年度定員割れ人数合計 |        |     | 201    |
| 2013年度定員割れ人数合計 |        |     | 160    |
| 2012年度定員割れ人数合計 |        |     | 140    |
| 2011年度定員割れ人数合計 |        |     | 93     |

今年度の県立高校全日制入試について、表のようにまとめてみました。特色選抜入試の倍率が1.79倍、海外特別選抜が1.58倍、そして一般選抜は昨年とほぼ同様の1.25倍でした。

私たちが問題にしてきた定員割れは昨年度よりも62人少ない139人でした。中学校現場から感じたことは、校長自ら中学校を訪問したり、あるいは担当教員が複数回中学校を訪

| 学校名              | 学科       | 増やした人数 | 一般選抜倍率 |
|------------------|----------|--------|--------|
| 宇都宮南             | 普通       | 1      | 1.76倍  |
| 宇都宮中央女子          | 総合家庭     | 1      | 2.06倍  |
| 宇都宮白楊            | 生物工学     | 1      | 1.56倍  |
|                  | 食品科学     | 1      | 1.74倍  |
| 宇都宮工業            | 建築デザイン   | 1      | 1.68倍  |
|                  | 環境建設システム | 1      | 1.52倍  |
| 鹿沼南              | 食料生産     | 1      | 1.55倍  |
|                  | 環境緑地     | 1      | 1.52倍  |
| 小山南              | 普通       | 1      | 1.77倍  |
| 小山北桜             | 生活文化     | 1      | 1.68倍  |
| 栃木農業             | 農業       | 1      | 1.41倍  |
|                  | 食品化学     | 1      | 1.48倍  |
|                  | 生活科学     | 1      | 1.63倍  |
| 真岡工業             | 機械       | 1      | 1.52倍  |
| 定員を上回って合格させた人数合計 |          | 14     |        |

問することもありました。今になって思えば、県教委としては何とかして定員割れを一人でも少なくするよう、各高校に対して「ハッパ」をかけていたのではないかと想像することができます。

そうした取り組みもあって、昨年まで連続して名前を連ねていた高校が定員を満たすこともできたのですが、それでも定員を満たすことができない高校・学科がありました。県教委や各高校の取り組みを評価はしますが、私たちとしては定員を充足させるための再募集と、いわゆる学校間格差を無くしていくことを求めています。

## 定員を増やした高校も

一方9校14学科が定員を上回る合格者を出しました。1.5倍をこえるような倍率なのだから合格者を増やしたのは当然の措置だと思います。しかし、どの学校・学科も増やした

のは1名だけ。1名だけで平均並みの倍率になったとは思えません。3年前に合格者を増やした学校が下の表に示されていますが、5校は3年前も定員を増やしているのです。毎年高い倍率になることが予想されるなら、やはり定員を見直すべきです。

また執行委員長のあいさつでも指摘されていましたが、普通科の学区撤廃によって、いわゆる進学校の倍率がさらに高くなり競争を

**全日制合格者12,237人のうち、卒業した生徒は11,983人。卒業しなかった生徒は、昨年より40人増えて254人に!**

| 高等学校名    | 学科      | 増やした人数 | 倍率    |
|----------|---------|--------|-------|
| 宇都宮白楊    | 農業経営    | 1      | 1.93倍 |
|          | 生物工学    | 1      | 1.63倍 |
|          | 食品科学    | 1      | 2.07倍 |
|          | 農業工学    | 1      | 1.88倍 |
|          | 流通経済    | 1      | 1.85倍 |
| 宇都宮工業    | 機械システム  | 1      | 1.54倍 |
|          | 建築デザイン  | 1      | 1.70倍 |
| 宇都宮商業    | 商業      | 1      | 1.89倍 |
| 鹿沼南      | 情報処理    | 1      | 1.70倍 |
|          | 食料生産    | 1      | 1.94倍 |
| 小山南      | ライフデザイン | 1      | 1.51倍 |
|          | 普通      | 1      | 1.94倍 |
| 壬生       | 普通      | 1      | 1.55倍 |
| 真岡工業     | 機械      | 1      | 1.48倍 |
| 増やした合格者数 |         | 14     |       |

|                     |        |
|---------------------|--------|
| 2014年度県立高校合格者数      | 12,237 |
| 2017年3月県立高校卒業生数     | 11,983 |
| 卒業しなかった生徒数          | 254    |
| 卒業生数÷入学者数×100=97.9% |        |

県教委はこの3月に高校を卒業した生徒数もホームページで公表しています。昨年もまとめました（合格者数12,281人、卒業生数12,067人、卒業しなかった生徒214人、卒業生数÷合格者数×100=98.3%）が、この3月に卒業する2014年度の合格者数は、上記の定

激化させるという事態には今のところなってはいません。しかし、別な角度から見れば、各校の倍率が平均化されることもあってしかるべきですがそうなってはいません。

高校教育の機会均等を図るために示された「男女共学」、「総合制」、「小学区」を内容とするいわゆる「高校三原則」。私たちはこの原則を生かした入試制度を今後も求めています。

員を上回った合格者数を含めて12,237人でした。しかし、卒業した生徒は11,983人、その差は254人、97.9%になりました。

この中には退学した生徒だけでなく、留年などを行っている生徒も含まれるのでしょうか。それでも、ほとんどの学校で合格者全員が卒業していない実態は何とかして改善を図るべきです。目的意識をもって進路の選択ができるように1日体験学習をすべての高校で実施し、中学生にも理解できる高校の案内も作成されています。ホームページで各学校の活動状況も調べることができます。志望校の情報を十分理解しているはずなのに卒業までに至らない、その原因はここにあるのではなく、県教委がこれまですすめてきた「特色ある学校づくり」にあるように思えてならないのです。

それは「特色選抜」入試がよく示していると思います。各学校の「特色」に生徒が合わせていくことが求められるのです。十分に進路を考えてきたといってもまだ15歳。高校の3年間で自分の進路を確実にしていく生徒も少なくありませんし、交友関係で悩むことも十分考えられます。

来年は今年よりも卒業生が一人でも多くなることを願っています。